

平成23年度 第14回 経営戦略会議 審議結果

日時：平成24年1月24日（火）9：30～11：00

場所：5階庁議室

<議題1>9：30～10：00

【議題】 ICTの利活用による地域活性化等に関する包括連携協定の締結について

【提案局】 企画財政局

説明者：岡企画財政局長（萱野企画課長）

【出席者】 幸山市長、西島副市長、寺崎副市長、松平危機管理防災室長、
飯銅市民生活局長、續健康福祉局長、前淵子ども未来局長、
原本環境保全局長、大塚農水商工局次長、坂本観光文化交流局長、
高田都市建設局長、松永交通事業管理者、廣塚教育長、

【付議内容】 ICTの利活用による地域活性化等に関する包括連携協定の内容を確定したい。

【資料】 ◇付議事項調書（様式1）
◇ICTの利活用による地域活性化等に関する包括連携協定の締結について（資料1）
◇ICTの利活用による地域活性化等に関する包括連携協定書（案）（資料2）
◇全体スケジュール案（資料3）
◇ICTの利活用による地域活性化等に関する包括連携協定 アイデア出し関係課一覧（参考資料）
◇政策調整会議内容検討表（様式4）

【審議結果】 ◆原案どおり了承

【議事概要】 ◇上記付議内容について確定した。

【主な意見】 ◇本件のようなNTT西日本との連携は、全国でも初めての事例となることから、全庁を挙げて、積極的に取り組んでもらいたい。（幸山市長）
◇熊本はNTT西日本の管轄エリアにある都市の中で、中心市街地の集積もあれば過疎地域もあるという、全国の縮図という都市形態であり、今後構築する新しいシステムが全国に展開できるという考え方から選ばれたものと認識している。熊本オリジナルのシステムを構築していきたい。（寺崎副市長）
◇費用負担はどのように考えているのか。（續健康福祉局長）
→ICTに関係する部分のハード、ソフトについては、基本的にNTT西日本が負担することとなるが、市としても負担すべき費用は負担金として拠出することを検討している。（萱野企画課長）
◇災害時にシステムに障害が発生する可能性はないのか。（坂本観光文化交

流局長)

→Wi-Fiにおいては、災害時に電話回線等が麻痺するような事態は起こりにくいと考える。しかしながら、大規模災害でクラウドに障害が生じれば、サービスが使用できなくなる可能性はある。(萱野企画課長)

<議題2>10:15~11:00

【議題】 熊本市コンベンションシティ基本構想(素案)について

【提案局】 観光文化交流局

説明者: 坂本観光文化交流局長(中村シティプロモーション課長)

【出席者】 幸山市長、西島副市長、寺崎副市長、岡企画財政局長、重浦総務局長、大塚農水商工局次長、高田都市建設局長、

【付議内容】 熊本市コンベンションシティ基本構想(素案)を決定したい。

【資料】 ◇付議事項調書(様式1)

◇熊本市コンベンションシティ基本構想 素案 概要

◇熊本市コンベンションシティ基本構想(素案)

◇政策調整会議内容検討表(様式4)

【審議結果】 ◆原案どおり了承

【議事概要】 ◇上記付議内容について確定した。

【主な意見】 ◇開催件数については、コンベンションとイベントの200件と記載していたが、MICEの概念には会議等も含まれるため、その数を含めた1400件に修正した。(坂本観光文化交流局長)

◇施設の利用見込みについては、他都市の事例を参考にしつつ、施設の規模やメインホールの形式が類似しており、市内中心部に立地している福岡の施設を参考に算定を行ったところ。大規模な会議の開催総数としては、他の政令指定都市の中でも平均的数値である。(観光文化交流局長)

◇施設の利用見込みについて、福岡国際会議場を参考したことは理解できるが、立地条件や地域の特性は違うため、今後、本市の現状やポテンシャルなどを考慮した利用見込みについての整理が必要。(西島副市長)

◇熊本の中心部にMICE施設を造ることにより、既設の宿泊施設を活用できることや、熊本城や飲食店へも徒歩でいけることなど、立地の優位性についても情報発信していく必要がある。(岡田企画財政局次長)

◇コンベンション等の誘致による交通への影響など整理すべき課題については、観光文化交流局と都市建設局が連携し調査・検討を行う必要がある。(高田都市建設局長)

◇施設整備は再開発の進捗に併せたスケジュールとなるが、今後は構想実現に向け、どんな施設が必要なのか、どんな課題があり、どのように解決を図っていくのかなど調査・検討を行い計画等の作成へ反映させること。(寺崎副市長)

◇レセプションについては、基本的には既存の周辺ホテルで対応可能と考えているが、周辺ホテルで対応できない場合は当施設の利用もありうると想定。（観光文化交流局長）